## 福島県浪江町における実習を事例とした域学連携プログラムの考察

Study of Practical Training Program in Collaboration University and Local Area in a Case of Practical Training in Namie Town, Fukushima Prefecture

●高宮伶奈 <sup>1)</sup>,入江彰昭 <sup>1)</sup> ●Rena TAKAMIYA <sup>1)</sup>,Teruaki IRIE <sup>1)</sup>

1) 東京農業大学 Tokyo University of Agriculture

キーワード:域学連携, 実習プログラム, 住民

Keyword: Collaboration of university and local area, Practical training program, Resident

本研究では、福島県浪江町における実習を事例として域学連携に対して住民がどのような想いを持って活動しているのか住民の想いを明らかにし、さらに住民と参加学生との想いについて考察した。その結果、住民は学生に対して概ね好意的な思いを持っているが、住民の従来の作業を遅らせてしまう要因の一つとなっていることがわかった。また、学生も住民との交流に好意的であるが、復興支援を意識して参加している傾向がみられた。

The results of this study, it was showed that although residents generally have positive feelings toward students, this is one of the factors that delays residents' traditional work. In addition, although students were also positive about interacting with residents, there was a tendency for them to participate with an awareness of supporting reconstruction efforts.

	共通の思い	異なる思い
住民	・農大生が主体となった年間を通じた田んぼ作業	・従来作業よりも遅れてしまう
	・農作業だけでなく、地域の伝統文化を体験する機会	
	・ビオトープやエフレイ等の研究分野	
	・庭造り	
学生	・浪江町のイベントへの参加	・復興支援として関わりたい
	・交流、活動頻度の増加	
	・浪江町の農産物を使用した商品開発	
	・学生と住民の直接的なやり取り	
	・現地コーディネーター、地域コンサルタント	

住民と学生との交流 (連携事業) の持続性への思いの比較考察